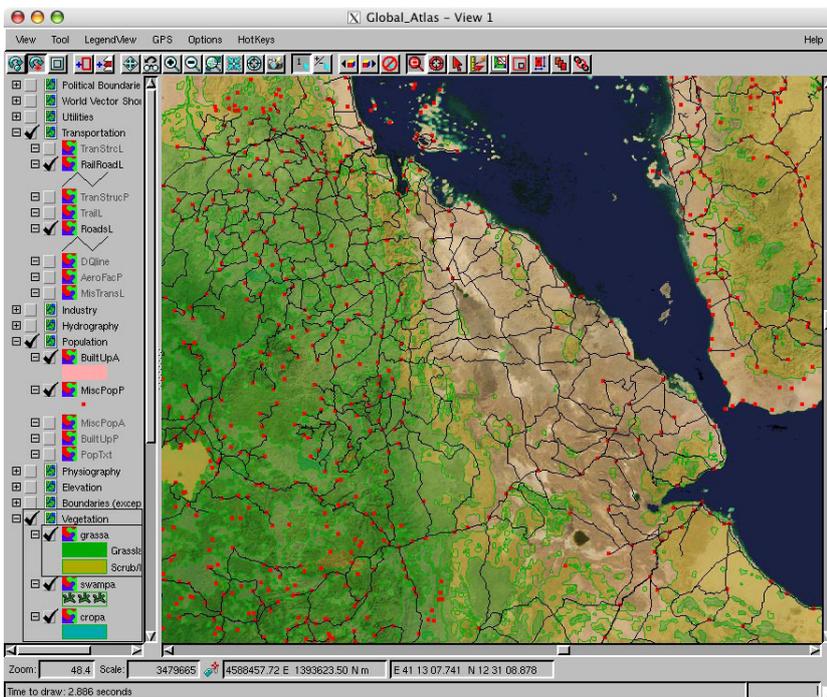


緯経度座標での Google Earth の起動

Google Earth がインストールしてあれば、TNTview や他の TNT 製品 (フリーの TNTAtlas を含む) の表示キャンバスをクイックスナップショットツールで撮るだけで、スナップショットフォルダに出来た KML ファイルをダブルクリックすると、Google Earth が開いてスナップショットしたエリアが拡大表示されます (テクニカルガイドの「空間表示: 表示コンテンツのクイックスナップショット (Spatial Display: Quick Snapshot of View Contents)」を参照)。Google Earth では WGS84 緯経度座標参照系「WGS84 地理座標 (Geographic)」を選択します) の TIFF、JPEG または PNG フォーマットのラスタが必要です。緯経度以外の別の投影法を使用して表示した場合、緯経度の場合と比べてモニター上で 1 ピクセル以上ずれるようであれば、スナップショットで KML ファイルは作られません。座標参照系とスナップショットの範囲の両者により KML ファイルが作られるかどうか決まります。キャプチャ可能でかつ KML ファイルが生成可能なエリアは投影法によって変わります。例えば、ランベルト正積方位図法を使っていて、スナップショットエリアの幅が 20 マイル (32km) 以下であれば KML ファイルは作られますが、40 マイル (64km) 以上のときは作られません。幅が 40 マイルでは、この図法のデータを緯度 / 経度座標参照系で表示すると歪んでしまいます。インターネットに接続中にこの KML ファイルをダブルクリックすると、Google Earth が起動し、そのスナップショットとほぼ同じ範囲を拡大表示します。あるいは、スナップショットオプションの [結果をグーグルアースで表示 (Show Result in Google Earth)] トグルボタンをオンにしておけば、Google Earth が自動的に起動して所定の場所にスナップショットが表示されます。



TNT 製品で表示するどんな地理データのスナップショットも Google Earth 上に重ねて表示できます。左図は、マイクロイメージ社のグローバルジオデータ DVD のデータを直接表示しているところです。グローバルジオデータは何もしなくても緯度 / 経度で表示されるので、下記のような KML ファイルを含むスナップショットフォルダができます。この KML ファイルをダブルクリックすると Google Earth が起動し、このスナップショットが図のように重なって表示されます。



クイックスナップショットツールで作られたフォルダとファイル。

Google Earth に重ねたエチオピア (図の手前部分) の居住地、道路、植生 (右図)。TNT 製品と Google Earth を組み合わせれば、ある地域にどのように救援物資を届けるか、誰が一番必要としているかを判断する 1 つの仮の例を示しています。DVD の 3 つのベクタレイヤに加えて、Google Earth による地形データが輸送の難易度を判断する助けとなります。実際に救援活動に従事していれば、TNTmips を使って、画像や他のデータソースから最新の詳細データを集めることになります。このように表示すると、道が無いため救援物資の配給が困難な居住地や、より支援の必要性がある居住地 (黄色がかかった低木林地帯と緑色の草原地帯を比較) が明らかになります。

